

Psyche

Vol.
100

2024
SPRING



PsycheとAI
痛風と食事
こんにちはレク委員会です

PsycheとAI

発刊100号を迎えて

病院長 小室 裕一



はじめに年頭の能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また当該地域の皆様の心休まる安全な生活の確保と地域社会の速やかな復興をお祈り申し上げます。

当院をご利用されている皆様におかれましては、2020年来の新型コロナウイルス感染症の感染対策にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。このウイルスは変異を繰り返すことにより重症化率は徐々に低下しているものの現在流行している変異株は感染力が持続しており、免疫力や抵抗力が低下している患者様が多い院内においては感染対策のご協力を引き続きお願い申し上げます。

昨年当院は創立40周年を迎えることが出来ました。これはひとえに当院に携わっていただいた多くの方々のご支援やご協力の賜物であることと深く感謝し、この紙面をお借りして皆様に御礼申し上げます。これからも研鑽を積み知識や技術の向上に努め、患者様に心暖かい医療が提供できますよう運営してまいりたいと考えております。



院内プシケ像

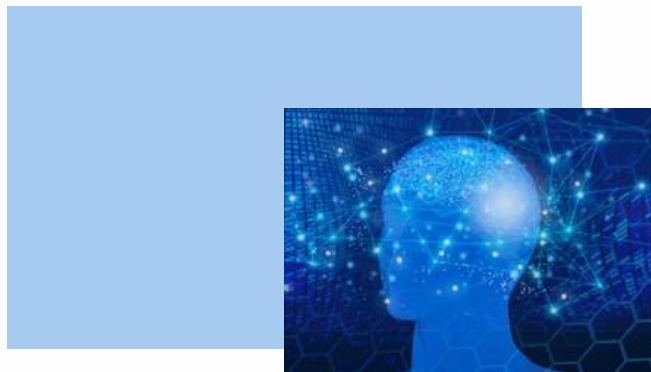
さて、本誌を振り返りますと第1号は1999年(平成11年)7月に発刊されました。当院開設者である小濱卓司先生が皆様と「心」を繋ぎたいという願いを込めて「プシケ」*と命名し、当院の活動を多くの方々にお知らせする便りという趣旨でスタートしました。広い範囲の皆様を対象としていることから院内報と広報誌の両方の役割を併せ持ち、スタッフが様々な視点から執筆し季刊誌として25年発行を続け今回が節目の第100号となりました。

この機会に前号までを顧みますと、医療の話題や院内の行事、エッセイなどが時代背景とともに記されており、情報提供にとどまらず医療従事者としての心構え、気付きや感動など様々な心の在り様や想いも読み取ることが出来ます。皆様も本紙面を通して「心」を繋ぎたいという願いを込めたタイトルの趣旨を汲み取っていただけましたら幸いと存じます。

創立された41年前まで遡ると、現在まで医療の進歩のみならず患者様の医療に対する知識や意識、医師(医療従事者)と患者様の関係性などに大きな変化が認められています。さらに近年においてはAI(Artificial Intelligence; 人工知能)診断や遺伝子治療などが徐々に普及し始めています。これらは診断精度の向上や治療法の選択、業務のサポートなどに大きく貢献するものと思われませんが、AIにはいくつかの問題点も考えられます。

例えば、生成AIによる情報と導かれた最適解と思われる回答を過度に重視しAIに任せてしまうと、診療で重要な「説明と同意(IC;Informed Consent)」においてAIが主導し人間が従属的な立場となり、結果としてAIが説明と同意を行なう状況が生まれる可能性があります。また、本来人間には認知バイアスが内在することに加え、AIにより得られる情報には偽情報のみならず先端技術により作られるディープフェイクが存在することもすでに指摘されており、お互いに誤った情報を基に判断する事態を招きかねないことも考えられます。あくまでも情報を見極めて参考として使用する補助ツールでなければなりません。

今後は人間と同等以上の能力を持つ汎用人工知能(AGI;Artificial General Intelligence)やAIが人間の知性を超える技術的特異点(singularity)の登場が危ぶまれています。一方では、AIは進化を遂げても人間の心や感情を理解することは将来的に不可能ではないかという推測があります。AIの更なる進化にも注視していく必要があります。



先月、EU(欧州連合)はAIの開発や運用を規制する「AI法」を制定し2026年に適用を開始することが決定され、国連総会ではAIの利用を巡る安全性の確保を求める「AI規範」が決議されました。

医療AIもその倫理と規制を体系的に整備するとともに、利点だけでなくリスクや限界も理解したうえで医療提供者がリテラシーを高めAIに依拠せず主体的に選択し、心を通わせた円滑なコミュニケーションにより正確な情報を伝え、患者様の十分な理解に基づいた意思が尊重されなければならないと思われま

当院は20年から30年と長く勤められるスタッフが近年増えてまいりましたが、これまでの経験や実績を継承しながら新しい知識や技術を正確に学び取り入れていくことが大切であることを改めて実感しております。そして次の節目である創立50年に向けて、患者様と心を繋いだより良い関係性を図り真摯に丁寧な診療を尽くし、皆様のご期待にこたえられるようスタッフ一同努めてまいりたいと考えております。

今後とも当院の運営にご協力いただきますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

【参照】

- 1) 「プシュケ」*:ギリシャ語で「蝶」。「心」、「魂」、「生命」を意味する。
ギリシャ神話に登場する女性の名前。
- 2) 表紙: 当院受付の壁面に飾られた開設者制作(1982年9月)のプシュケの陶板。
ギリシャ神話に登場する女神が手をつないで踊る姿。
- 3) 本誌既刊: 第1号~第5号(3号を除く)「プシュケについて」
第96号~第99号「プシュケの歩み」



痛風と食事

シリーズ3

栄養課

管理栄養士の観点から
日々の生活が過ごしやすくなるような
情報をシリーズでお伝えしています

痛風とは

足の付け根や足関節等が、突発的に腫れて激痛を伴い、急性関節炎を起こした状態をいいます。激痛は2~3週間で消失しますが、再発も多く間隔は徐々に短縮され、炎症部分も拡大していきます。

原因となるもの

痛風は血液中に過剰に蓄積された尿酸が結晶化し、関節に沈着することで引き起こされます。この尿酸はプリン体というものから分解されてつくられる物です。通常、尿等から排泄されますが、過剰になると血液中に蓄積されていきます。

プリン体は通常、細胞の代謝によりつくられますが、食品からも摂取しています。日本人の1日平均プリン体摂取量は約100~150mgですが、食事内容によっては1日500mgを超える場合があります。痛風になった際は、1日のプリン体摂取量は400mgを超えないことが望ましいとされています。

プリン体を多く含む食品

プリン体は細胞の核に存在しているため、ほとんどの食品に含まれていますが、食品100g当たり200mg以上のプリン体を含む食品をプリン体の含有量が多いとみなします。その中で、プリン体を300mg以上含む食品はレバー、白子等の動物の内臓や精巢、イワシ類です。

アルコールに要注意！

アルコールはビール大瓶3本で日本人の1日平均プリン体摂取量に匹敵します。アルコールはプリン体の含有量に関わらず、それ自体が尿酸の排泄を悪くさせ、尿酸値を上昇させます。プリン体を含む量は食品ごとに異なりますが、食事の摂取量自体が多いとそれに伴い、プリン体の摂取量は増えることになります。

痛風のリスクを下げるには、過食を避け、プリン体を多く含む食品を取りすぎないことが大切だと考えます。日々の生活の中で、取りすぎている食品はないか今一度見直し、適切な摂取量にすることで、痛風のリスクを減らしていきましょう。



こんにちは レク委員会です

2月「節分」

鬼の格好をした職員と患者様で豆まきをしました。ホールでの的当て、カゴに投げ入れる、職員鬼に当てる…等、レク委員が患者様に合わせ工夫して行いました。

初めは的を狙っていた患者様が、鬼めがけて鋭い眼差しで投げる力強い投球に驚きました。



3月「上映会」

“動物スペシャル”

年に1度は動物系を観たいという希望があります。皆で笑い合う和やかな雰囲気の中で、「癒された」「昔飼ってた犬を思い出し、涙しそうになった」といった感想がありました。



4月「お花見会(上映)」

桜の名所の映像を鑑賞

当院の庭園の桜も満開となり、暖かな日に多くの患者様と散策しました。桜咲く風景は春の思い出を呼び起こしてくれるようです。

見て、こんな所にも咲いている。可愛いわね。



今年度のレクリエーション委員会はこれもちまして終了しました。患者様参加人数も少しずつ増え、コロナ禍以前の活気を取り戻しつつあります。

これからもレクリエーション行事を通して、患者様の笑顔や感情を引き出せる内容に取り組んでいきたいと思えます。

レクリエーション委員長

レク行事予定

5月7日～5月18日 上映会
6月3日～6月15日 みんなで楽しむ音楽会
7月1日～7月13日 七夕会

医療連携室（入院）

TEL：04 - 2943 - 1103【直通】

受付時間 9：00～17:00（日、祝除く）

※まずは、お気軽にお電話下さい



療養上の心配や不安、各種制度利用や誰に相談してよいか分からず困っていることなどを、皆様と一緒に軽減・解消し、安心して療養生活を送れるように、ソーシャルワーカーがご相談をお受けしております

緊急時は、24時間
対応いたします

訪問看護ステーション

TEL：04 - 2933 - 8250【直通】

受付時間 9：00～17:00（日、祝除く）



食事・入浴介助、薬の管理、継続的な病状観察、医療処置、リハビリ、認知症ケア、心理的なサポートなど、住み慣れたご自宅での生活を送れるように、利用者様ご家族様を総合的に支援いたします

その人らしく

居宅介護支援事業所

TEL：04 - 2943 - 1101【代表】

受付時間 9：00～17:00（土、日、祝除く）



介護保険や介護に関する相談、ケアプラン作成、申請手続きの代行、自宅での快適な環境作りなど、利用者様ご家族様のご要望に沿った最適なサポートをご提案いたします

Psyche

Vol.100
2024 SPRING



医療法人 清和会
新所沢清和病院

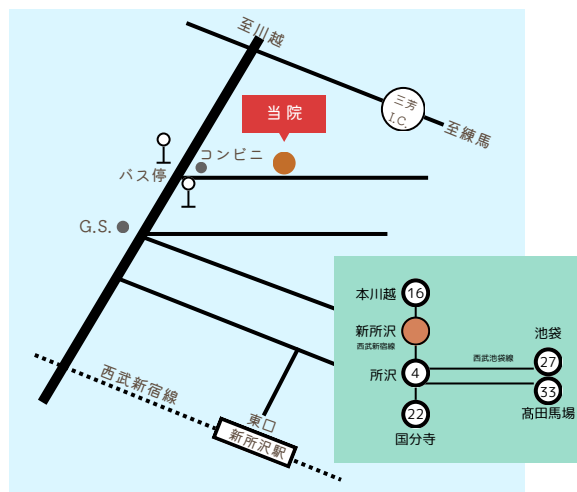
内科、精神科、整形外科、リハビリテーション科、歯科

359-0005 埼玉県所沢市神米金141-3

TEL 04-2943-1101

MAIL mail@hp-seiwa.org

HP <https://www.hp-seiwa.org/>



交通アクセス

西武新宿線新所沢駅東口下車

バス 2番乗り場「西武フラワービル行き」又は「本川越行き」にて6つ目「所沢新田」下車1分

タクシー 約2 km

車
・所沢ICより 約9 km
・三芳スマートICより 約7 km
・川越ICより 約13 km